

## 北山の赤犬と女

北の山に、女と赤い犬が住んでいた。

ある晩、旅人が宿を請うた。

女の美しさにひかれ、逗留は数日に及んだ。

三日目の晩、旅人と女は、犬に毒をもった。

もがき苦しみ、赤い毛は白く変じ、その場に打ち伏した。

手を取り合って山を逃げくだる女と旅人。

二人の姿が映るその眼から、三筋の赤い涙が流れ落ち、そのまま息をひきとると、人の姿に変じた。

里人はこれを聞き、

かの赤犬は女の亭主であったが、物の怪にとりつかれ、あのような姿となって、山に暮らしたと噂した。